

平成29年2月1日現在の世帯数と人口

(千種区 18.18Km²)

学区名	世帯数	人 口			対前月増減	
		総数	男	女	世帯数	人口
1 千 種	5,396	8,783	4,432	4,351	4	3
2 千 石	3,943	6,781	3,414	3,367	△ 11	△ 8
3 内 山	5,285	7,480	3,966	3,514	15	8
4 大 和	3,371	6,671	3,293	3,378	3	10
5 上 野	7,256	15,418	7,696	7,722	△ 11	△ 13
6 高 見	7,158	13,381	6,429	6,952	△ 1	△ 2
7 春 岡	6,733	10,847	5,727	5,120	25	34
8 田 代	11,357	21,773	10,533	11,240	△ 18	△ 14
9 東 山	10,192	19,275	9,497	9,778	△ 4	△ 2
10 見 付	4,409	8,408	4,262	4,146	△ 20	△ 28
11 星 ケ 丘	3,494	6,926	3,164	3,762	△ 3	△ 3
12 自 由 ケ 丘	3,564	7,367	3,354	4,013	5	9
13 富 士 見 台	6,400	15,454	7,145	8,309	2	19
14 宮 根	3,774	8,401	4,026	4,375	7	5
15 千 代 田 橋	3,581	8,546	3,992	4,554	6	0
千 種 区 計	85,913	165,511	80,930	84,581	△ 1	18
H28. 2. 1	85,096	164,951	80,663	84,288	5	104
対 前 年 比	817	560	267	293	△ 6	△ 86
名 古 屋 市	1,075,388	2,306,901	1,139,574	1,167,327	△ 74	△ 406
愛 知 県 (H29. 1. 1)	3,114,183	7,511,099	3,757,245	3,753,854	38	△ 986

前月中の増減内訳	自然動態			社会動態		
	出 生	死 亡	自然増減	転 入	転 出	社会増減
	121	162	△ 41	752	693	59

【参考】

国勢調査千種区人口				これまでの最大人口	
昭和55年	166,837	平成12年	148,537	173,598 (昭和50年2月1日)	
昭和60年	163,762	平成17年	153,118		
平成2年	156,478	平成22年	160,015	これまでの最少人口	
平成7年	148,847	平成27年	164,696	146,727 (平成11年4月1日)	

注) 世帯数と人口は、平成27年国勢調査結果確定値を基礎とし、毎月の住民基本台帳人口の異動数を加減して推計したものである。

千種区の性比の現況および推移

平成 29 年 2 月 1 日現在の千種区の世帯数は 85,913 世帯、人口は 165,511 人となっています。今回は、千種区の性比（女性の人口を 100 とした場合の男性の人口数）の現況を名古屋市全体および各区と比較し、過去 14 年間の推移を示した上で、各学区の平成 18 年および平成 28 年の性比をみてみます。

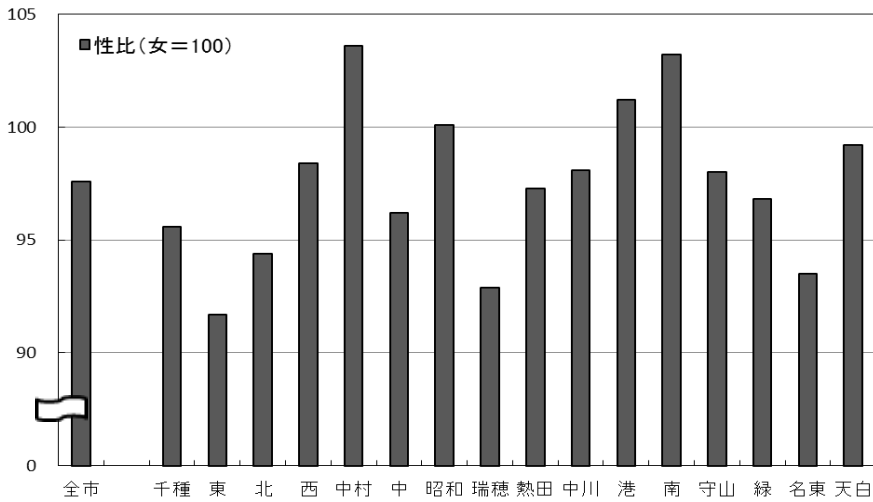


図1：名古屋市全体および各区の性比（平成 28 年 10 月 1 日現在）

千種区の平成 28 年 10 月 1 日現在の性比は 95.6 となっており、これは千種区において女性の人口の方が多いことを意味します。図 1 をみると、千種区の性比は名古屋市全体を下回っており、16 区中 5 番目に低い値となっています。性比が最も高いのは中村区（102.9）、最も低いのは東区（91.3）です。

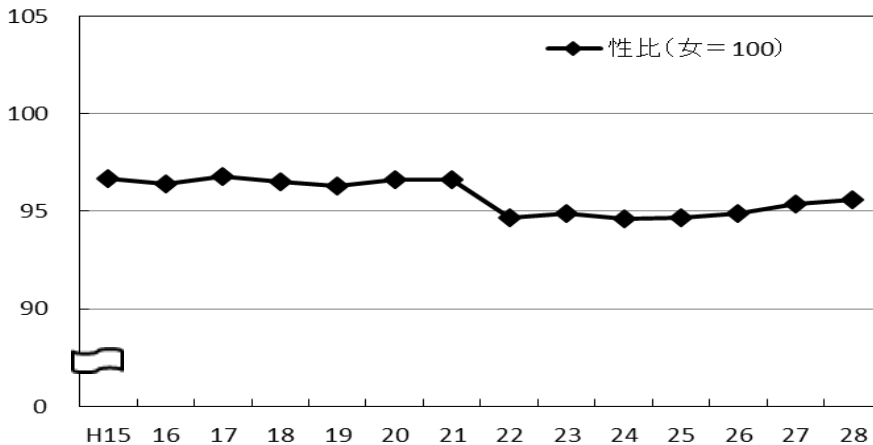


図2：千種区の性比の推移（平成 15 年 10 月 1 日～平成 28 年 10 月 1 日）

図 2 では、千種区全体の性比を平成 15 年から平成 28 年まで示しています。これをみると、平成 15 年から平成 28 年およそ 95 前後で推移しており、千種区では常に男性の人口よりも女性の人口の方が多いことがわかります。

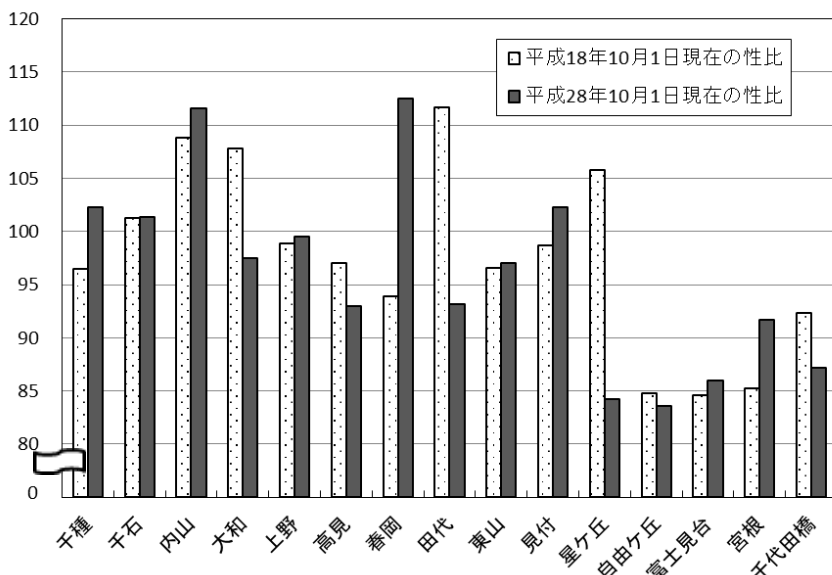


図3：各学区の性比の比較（平成 18 年 10 月 1 日および平成 28 年 10 月 1 日）

次に、千種区内の各学区の性比をみてみます（図 3）。平成 28 年 10 月 1 日現在で性比がもっとも高い学区は春岡学区（112.5）で、もっとも低い学区は自由ヶ丘学区（83.6）でした。また、平成 18 年 10 月 1 日現在でもっとも性比が高い学区は、田代学区（111.7）、もっとも低い学区は富士見台学区（84.6）でした。両年を比較すると、10 年間で性比が高くなった学区は 9 学区、低くなった学区は 6 学区でした。